

令和元年度 学校評価書

学校教育目標 「すすんで学び、よりよく生きる人を育てる」

めざす子ども ○心も体も元気な子ども ○生活する力のある子ども ○自分の思いや気持ちを伝える子ども

【評価】 保護者による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大48点）保護者16名

教員による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと教員 最大30点）教員10名

めざす学校	重点	評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題（○）及び改善策（→）
早く登校したくなる楽しい学校	一人一人に応じた指導のために研修の充実・専門性の向上	(1) 授業研究会の計画的な取組や研修の充実に努め、指導・支援や授業改善に生かしている。	・個々の教員がもつ専門性、研修会や授業研究会等で得た情報をお互い共有し、授業の質を高め、日々の指導・支援に生かす。	・昨年度の成果を基に研究テーマの設定や研究内容に生かした。 ・研究授業では協力して教材研究や教材準備等ができた。 ・月に2回設定している研修日を有効に活用できた。研修として、日常生活の指導に関するビデオ視聴が有効だった。また、S-M 社会生活能力検査の研修会を実施し検査法について学べた。 ・学習指導要領に基づいて算数科の資質・能力に基づく3観点の目標について事例をもとに研修を深めることができた。また、自立活動について実態とねらいの関連について研修することができた。	A	【研究・研修】<研修・相談隊、教務部、小学部> ○研究テーマなどを設定する時期が遅れ、校内研の計画、公開研の準備等の提案も遅れた。 →来年度は東北特別支援教育山形大会に向けて、校内授業研究会の方法や時期を見直し、計画的に進め、研究や授業づくり等について深める。 ○国語・算数、体育、時間における自立活動について、ねらい、教材・指導法等を研修し教師の力量を高める必要がある。 →今後、国語・算数、体育、自立活動について計画的に研修する機会を設ける。また、各自、文献や研修会への参加により専門性の向上に努める。
		(2) 個別の教育支援計画と個別の指導 計画を作成・活用し、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	・毎日、授業記録簿の記録と振り返りを行い、次時の授業を計画的に行う。 ・チームティーチングによる授業づくりを大切にしながら、児童の実態や障がいの特性に応じた学習内容や学習形態を検査し実践する。	・毎日授業記録と振り返りを行い、次時の授業へ生かした。 ・学部会で児童について共通理解する時間を設けた。日常的にお互いに情報交換し合い、支援法や国語・算数の課題設定などを話題にして、情報共有しながら授業づくりができた。 ・積極的に複数学級合同の授業を行い、支援体制の工夫や集団を意識した授業づくりができた。活動を通して児童同士のかかわりが深まり、役割を分担する等一人一人の力を発揮できた。		【年間指導計画・学習指導】<教務部、小学部> ○授業研究会で授業づくりについて深めたが、年間指導計画に修正を加える必要があった。→年間指導計画を参考にし、児童や学級の実態に合わせ、修正を加えながら活用する。 ○国語、算数を2週間ごとでなく学級の実態で行えると良い。 →時数が偏らないように原則として2週間ごとにし、児童の実態に応じ内容等を工夫する。 ○全学年合同の体育で、支援体制や教材の準備・片付け等に工夫が必要。→活動のねらいに向けて、チームティーチングの良さを発揮し、互いに協力し指導に当たる。
		(3) 年間指導計画に基づく学習指導と振り返りを通して、課題設定、学習内容等について検討し授業に生かしている。	・毎月、児童について情報交換をする場を設け、全員で児童の実態を探り指導に生かす。	・下学年の4時間目に日常生活の指導(0.4時間)を設定し、給食準備、排せつ、着替え等の指導にじっくり取り組めた。 ・1年生のスタート時期に午前授業期間を1週間取ったこと、4月にスタートカリキュラムとして4時間目に日生を設定したことで着替えや帰り支度等の丁寧な指導ができた。 ・水遊びについて児童の活動場所一覧を掲示したことで、支援体制が分かりやすかった。 ・日々、教員間で児童について情報を共有した。また、保護者への対応について相談しながら問題解決に当たることができた。 ・全学級夏休み前に歯磨き指導ができた。学級によっては保護者に染めだしの結果を配布することができた。		【運動量・活動量】<生活部、小学部> ○冬季に中間休みに集まって運動する機会を設けたが、感染症流行時期に活動が難しくなった。 →各学級でできるような取組が必要である。また、冬の体力づくりを無理なく継続していく。
		(4) 学校生活において、児童の運動量、活動量を十分に確保している。	・体育の時間、昼休みの外遊び等により、運動量・活動量を増やす。	・「体育」や休み時間での、運動量は昨年度より増えてきた。また、体育の時間の指導を工夫した。 ・冬季になり、中間休みに児童が積極的に集まって運動する機会を設けることができて良かった。しかし、感染症流行に伴い全員での活動が難しかった。		【学校間・地域・居住地校交流】<教務部、小学部> ○3年生の交流学習(室内大型遊具施設の利用)では児童のかかわりが余り深まらなかった。 →来年度は、5年時の宿泊学習も意識し、交流の活動内容や場面設定を工夫し取り組む。 ○湯の上学習発表会への参加については、行事が多く厳しい時期だった。→来年度以降、計画的に取り組み、当日は発表と参観に絞るなど内容を改善する。
		(5) 津山小学校、本校、山形校や地域の方との交流及び共同学習の充実に取り組んでいる。	・津山小学校の施設や地域の施設及び人材を有効に活用し、水遊びや雪遊びなど季節に合った活動、地域の方との交流活動を十分にできるようにしていく。 ・津山小学校、本校、山形校との直接的、手紙やビデオを使った間接的な交流及び共同学習を継続的に実施し、人とかかわりを広げていく。	・津山小児童との交流「フレンズデー」の継続的な取組で、児童が以前より一緒にかかわりながら活動できるようになった。また休み時間に津山小児童と言葉を交わしたり、一緒に遊んだりすることが増え、児童同士の日常的なかわりが育まれている。 ・津山小湯の上学習発表会でステージ発表に参加し昨年度より進んだ形での交流ができた。 ・5年生の居住地校交流を計画し実施できた。来年度に引継ぎため両校担任間の連絡内容、事後処理等記録を残している。 ・6年生の修学旅行(事前学習含)では、6年間の積み上げと少人数の良さがあり、大変良い交流ができた。 ・本校・山形校との交流は、各学年の事前指導により有意義な交流だった。手紙のやり取り等の間接的な交流もできた。		【かかわり・思いを伝える力】<全体> ○一人一人の児童の思いを理解する手立てや意思伝達のための支援方法を教員間で共通理解する必要がある。 →全児童について日頃から児童理解に努め、情報交換する。また、個々の障がいの状態や教育的ニーズに応じる合理的配慮を個別の教育支援計画に明記し、次の担任にも引き継がれるようにする。
		(6) 人とかかわり方や自分の思いを伝える力を育てる指導・支援を行っている。	・児童に合った視覚支援、情報の文字化、ICT機器活用等により、意思確認や自己選択・自己決定等を支援する。	・絵カード等の視覚支援を有効に使っている。給食の片付け方、保健指導などもイラストで示し分かりやすかった。 ・児童の気持ちを理解し言葉で代弁しながらかわることで、児童の思いを大切に指導した。 ・児童の不適切な言葉遣いを注意し教師が手本を示すなど、日々繰り返し指導した。また、朝や帰りの挨拶、職員室や他教室への入り方(ノック、挨拶など)が少しずつ身に付いてきた。		
		<p>評価点集計 教員(1)20点、(2)24点、(3)23点、(4)22点、(5)28点、(6)27点 教144/180満点 80% 保護者(1)(成長:44点)保護者(2)(指導支援:43点)保護者(3)(体:41)保護者(4)(交流:41)169点/192満点 88% 集計結果84%</p>				

2	安心してまかせられる安全な学校	危機意識を忘れず津山小と安全面の連携	(1) 児童・保護者の相談や地域の学校等からの要請に応じて、関係機関と連携(ケース会議を含む)して教育支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携のもと、一人一人の配慮事項を把握し、それに応じた取組を行っていく。 家庭との日々の連絡は連絡帳や電話、送迎時のやり取りを効果的に活用する。 相談支援事業所、医療機関などと連携し、情報を共有し日々の指導支援に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談や連絡帳でのやり取り、登校時などの情報交換を大切に、指導に当たることができた。 相談支援事業所とのケース会(2回)を実施し、情報交換、支援方法なども共通理解でき、その後の指導に生かすことができた。 子どもの健康に関する研修会で小児の肥満について取り上げ、専門の小児科医に依頼し、講話と質疑によりその危険性について深く学ぶことができた。その後、保護者に理解を促し、家庭で食生活の改善を考えるようになった。 	A	<p>【健康・安全】<学部、生活部></p> <p>○今年度、手洗いの指導、性教育を新たに実施した。</p> <p>→来年度は年間計画に入れて計画的に実施する。</p> <p>○排せつの自立、生活リズム、登校時間を守ることなど、家庭との連携が難しい部分もあった。</p> <p>→保護者面談、家庭訪問時に普段の生活について詳しく聴取し、改善が担任だけで難しい部分は、養護教諭や学校医とも連携し、保護者の意識喚起を継続して行う。</p>
			(2) ヒヤリハットの集積や情報の共有により、解決策を出し合い、事故やいじめの未然防止を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に複数の目で学習環境を確認し、危険な箇所に気付いたときはすぐに報告し改善する。 職員会議(月1回)でヒヤリハット集積の報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故の未然防止として、指導用にグラウンドの遊具使用の約束(イラスト付)を配布し、遊具遊びのルール等を継続指導した。 感染症予防として、インフルエンザ流行前に保護者へ対応マニュアルを配布した。 健康診断・検診に向けて、日程や支援体制を冊子で配布した。また保健室の見学、診察の受け方の練習、耳鼻科検診の検査機器を使った練習等を事前に行い、児童が見通しをもってスムーズに検診ができた。 		<p>【危機管理・津山小と安全面の連携】<生活部></p> <p>○服薬依頼の薬を保管する体制、てんかんマニュアルに曖昧な点がある。</p> <p>→早期に養教を中心に体制を整え、発作時の緊急時対応については職員研修会で周知する。</p> <p>○児童の情報共有の機会(学部会1回/月)が少ない。</p> <p>→週に2回の終礼を活用し情報共有する。</p> <p>○近年の全国的な大規模災害にともない、災害時の避難等について周知徹底をする必要がある。</p> <p>→アクションカードを作成・設置し、緊急時の動きをより分かりやすくする。</p> <p>○防災教育や非常用備蓄を充実させる必要がある。</p> <p>→家庭から個人用備蓄品を持参し、個別に対応できるようにする。</p>
			(3) 津山小学校と合同の避難訓練、安全マニュアルに基づく職員の実技研修等を実施し、緊急時の対応に備えている。	<ul style="list-style-type: none"> 合同避難訓練の取組を充実する。 土砂災害避難確保計画の作成し職員へ周知確認する。また保護者へ児童引き渡しについて伝える。 緊急時対応実技訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同避難訓練(土砂災害想定3年に1回を含む)では、事前事後学習の取組、児童にとって分かりやすい避難場所の設置によって混乱なく実施できた。 土砂災害については新たに避難確保計画を作成し、職員への周知と保護者へのお知らせを配布し、災害時に備えることができた。 児童が備蓄食品を試食する機会をもち、食べやすさ等を確認できた。 職員による緊急時対応実技訓練を実施した。実際の場面を想定したことで課題も見えた。その後、緊急時の119番マニュアルを作成し職員室内に設置した。 		
<p>評価点集計 教員(7)28点、(8)24点、(9)27点 教79/90満点 88%</p> <p>保護者(5)(健康・安全:45点)保護者(6)(保護者との連絡:42点)保87点/96満点 90%</p> <p style="text-align: right;">集計結果89%</p>							
3	相談や支援を受けられる頼りになる学校	保護者の方々や地域への情報発信	(1) 教育相談の実施や地域の学校の授業研究会等での指導等、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談の要請に応じた職員の派遣を計画的に実施する。 学校見学や教育相談への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 依頼に応じ日程調整してケース会を開き、情報交換を行うことができた。また、巡回相談の事前に勉強したり、準備をしたりして臨むことができた。 地域の人材を大いに活用し、交流活動をたくさん行うことができた。児童も様々な人とかわる活動に慣れてきている。 	A	<p>【センター的機能】<教務部、小学部、巡回相談員></p> <p>○巡回相談の際に指導案を可能なら複数名で検討し支援に臨めると研修になるのではないかと。</p> <p>→依頼側の指導案が届くタイミングに合わせて、できる限り指導案検討等の機会を設ける。</p>
			(2) 地域の方との交流、地域回覧用の学校だよりの定期的な発行、学校紹介リーフレットの作成・活用により、児童校の情報を発信している。	<ul style="list-style-type: none"> 地域向け学校だよりの発行 学校リーフレットの作成と活用 地域の方を招いての学習活動計画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域回覧用の学校だよりを定期的に発行した。またリーフレットを学校見学者等に配布し活用している。 児童の書初め作品を旧郡役所資料館に展示する機会を得て、上学年の作品を出展した。また積極的に市子ども絵画展に出展した。 学校に届いた関係機関等の研修案内を配布し保護者の要望に応じた。 P.T.A保護者研修会では見学先等保護者の意見をもとに計画し実施できた。 		<p>【地域交流・情報発信】</p> <p>○収穫祭に畑の先生を招待することが定期的に難しく、児童の手紙を届けてお礼に代えた。</p> <p>→来年度は、収穫祭での直接交流を行なうために日程を早めに調整する。</p> <p>○年度当初の学校だよりに転入職員の紹介や学級紹介があれば良かった。(保護者のアンケートでの要望)</p> <p>→学校の様子が分かるように内容を改善する。</p>
			<p>評価点集計 教員(10)26点、(11)27点、教53/60満点 88%</p> <p>保護者(7)(地域への発信:41点)保護者(8)(学校からの情報:40点)保81点/96満点 84%</p> <p style="text-align: right;">集計結果86%</p>				
4	働かせようがこのめ学校		(1) 会議や打合せの精選により、授業の準備や教材研究、研修等の時間の確保をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、学習場面における役割や担当を調整し、教師一人一人の得意分野や専門性を生かして達成感をもてるようにしていく。 教員同士が、児童の成長を目指し、日々の授業についての考えや思いを協同し出し合える場や環境を常に整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 転入職員へのPC環境設定や故障への対応を業務に支障がないよう迅速に行えた。 日々の授業や児童の様子を気軽に話題にできる雰囲気があり、教材の準備や支援に生かすことができた。 職員室が話しやすい雰囲気、日々の子どもたちの成長や変化などを気軽に話すことができた。 転入者が初めて経験することや新しい業務等もあったが、お互いに教え合い学ぶ機会となった。 単学年で不安があったが、校外での活動などは複数学級合同で行うことができ安心して取り組めた。 	A	<p>【働きやすさ、協働】<全体></p> <p>○会議終了時刻を設定すると良い。→職員室の予定表に会議終了時刻を明記する。</p> <p>○年度当初の業務が、部内で偏った。→反省を生かし、部内で仕事分担を改める。</p> <p>○全教員が共同で取り組む意識がもう少しあればよい。</p> <p>→互いに遠慮せず依頼したり、進んで協力したりする職場づくりに努める。</p>
			(2) 全職員で情報を共有し協働のもと課題解決に向けて取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 校内倫理委員や管理職による呼び掛け。研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 不祥事根絶に向けて事案を取り上げて互いに考える機会をもった。また交通法改正に伴って注意を促す呼び掛けを行った。随時、やまがた110ネットワーク情報や事案の記事等を回覧した。 		
			(3) 法令等遵守、モラルの向上に努め同僚性や協働を大切にしている。				
<p>評価点集計 教員(12)24点 (13)24点 (14)27点 75点/90満点 83%</p> <p style="text-align: right;">集計結果83%</p>							